

科目名	ファンダメンタル・セミナー						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	法学部	配当年次	1年次	単位数	2単位
教員名	戸田 五郎						

授業概要／Course outline

専門的な学びの意義と面白さに気づき、学習に意欲的・能動的に取り組む動機づけを得ることと、基礎的なアカデミックスキルを1年次の段階で集中的に高めることは、4年間の法学部での学修において極めて重要である。本科目は、この二つを目的として、1年次春の「プレップセミナー」、「法律学入門」からより専門的な科目への橋渡しをする「AL（アクティブ・ラーニング）科目」である（「AL（アクティブ・ラーニング）科目」とは、受講生と教員の意見交換、受講生相互のディスカッション、あるいはレポート課題の提出など、より能動的な学習を重視した科目として特に指定されたものである。）。

このセミナーでは、主として日本と関わりのある国際問題からテーマを選んでディベートを重ねることを通じ、国際社会と、国際関係論、国際法への関心を喚起することを目的とする。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

- ・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート）
プレップセミナーと同様のルール構成の下でディベートを行う。予め設定された論点につき賛成・反対の立場から議論をたたかわせる。
- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
オンデマンド授業は、moodleで行う。内容に関する質問はメールで受けつける。

授業内容・授業計画／Course description・plan

授業は以下のスケジュールを進める予定である。ディベートの振り返りは、各テーマごとに受講者に提出を求めるレポートを題材に行う。

第1回：授業の進め方・テーマの選択

第2回：テーマ①（領土問題から選ぶ）：ディベート①

第3回：テーマ①（領土問題から選ぶ）：ディベート②

第4回：テーマ①：ディベートの振り返り

第5回：テーマ②（安全保障問題から選ぶ）：ディベート①

第6回：テーマ②（安全保障問題から選ぶ）：ディベート②

第7回：テーマ②：ディベートの振り返り

第8回：テーマ③（国際人権問題から選ぶ）：ディベート①

第9回：テーマ③（国際人権問題から選ぶ）：ディベート②

第10回：テーマ③：ディベートの振り返り

第11回：テーマ④（出入国管理問題から選ぶ）：ディベート①

第12回：テーマ④（出入国管理問題から選ぶ）：ディベート②

第13回：テーマ④：ディベートの振り返り

第14回：国際法模擬裁判に触れてみよう—国際法模擬裁判とは

★オンデマンド（90分、第14回授業後に配信） テーマ：国際法模擬裁判に触れてみよう—模擬裁判問題を読む

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回—事後学修：テーマ①-ディベート①の論点整理を各自で行う。

事前学修：テーマ①-ディベート①の事前準備にチーム単位で取り組む。

第2回—事後学修：テーマ①-ディベート②の論点整理を各自で行う。

事前学修：テーマ①-ディベート②の事前準備にチーム単位で取り組む。

第3回—事後学修：テーマ①につき行ったディベートに基づき、小論文を作成する。

事前学修：テーマ②の案を複数提出する。

第4回—事後学修：テーマ②-ディベート①の論点整理を各自で行う。

事前学修：テーマ②-ディベート①の事前準備にチーム単位で取り組む。

第5回—事後学修：テーマ②-ディベート②の論点整理を各自で行う。

事前学修：テーマ②-ディベート②の事前準備にチーム単位で取り組む。

- 第6回－事後学修：テーマ②につき行ったディベートに基づき、小論文を作成する。
事前学修：テーマ③の案を複数提出する。
- 第7回－事後学修：テーマ③-ディベート①の論点整理を各自で行う。
事前学修：テーマ③-ディベート①の事前準備にチーム単位で取り組む。
- 第8回－事後学修：テーマ③-ディベート②の論点整理を各自で行う。
事前学修：テーマ③-ディベート②の事前準備にチーム単位で取り組む。
- 第9回－事後学修：テーマ③につき行ったディベートに基づき、小論文を作成する。
事前学修：テーマ④の案を複数提出する。
- 第10回－事後学修：テーマ④-ディベート①の論点整理を各自で行う。
事前学修：テーマ④-ディベート①の事前準備にチーム単位で取り組む。
- 第11回－事後学修：テーマ④-ディベート②の論点整理を各自で行う。
事前学修：テーマ④-ディベート②の事前準備にチーム単位で取り組む。
- 第12回－事後学修：テーマ④につき行ったディベートに基づき、小論文を作成する。
事前学修：国際法模擬裁判に関し、指定された資料を読む。
- 第13回－事後学修：これまでディベートを重ねて自らが得たもの、課題として残った点等に関するレポートを作成する。
事前学修：国際法模擬裁判に関連するウェブサイトを開覧し、事前に知識を得ておく。
- 第14回－事後学修：授業内容に基づき、国際法模擬裁判の仕組みについて各自で確認しておく。
事前学修：事前に配付される国際法模擬裁判の問題を読み、問題文に含まれる論点の整理を各自で行う。
- ★オンデマンド－事後学修：オンデマンド動画を視聴し、指示されたテーマで小論文を作成する。
事前学修・事後学修はそれぞれ、100分は必要である（時間外学修時間合計2,900分）。上記内容を確認のうえ、確実に行うこと。

授業の到達目標/Expected outcome

- 受講者は、ディベートへの取り組みを通じて、
- ①主体的な学びの姿勢を身につけること、
 - ②グループで課題に取り組む能力を身につけること、
 - ③論理的に議論を行う能力を身につけることができる。

身につく資質・能力/Competencies to be attained

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・発信力 ・協働性・協調性 | <p>専門知識・専門技能</p> <p>【法学部 法律学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律学・政治学の基礎知識 ・法律学・政治学の知識の応用力 |
|--|---|

履修上の注意/Special notes, cautions

ディベートはチーム単位で取り組むものである。チームでの準備作業に参加しない受講者は不合格の評価とする。

評価方法/Evaluation

資料の涉猟と読み込みを通じたディベートのテーマの正確な理解に基づき、論理的な議論ができていくかについて、以下の基準で評価する。
ディベートへの貢献50%、小論文等50%

教材/Text and materials

教科書は指定しない。
参考文献は適宜指示する。

質問や相談の方法/Instructor contact

授業時以外で質問等がある場合は、オフィスアワーを利用するか、moodleに設ける質問用のフォーラム又は電子メールにより連絡されたい。